

東関東自動車道水戸線（銚田 IC ～茨城空港北 IC）の開通とその整備効果等

NEXCO 東日本 関東支社

はじめに

東関東自動車道水戸線（以下、東関東道という）の茨城県内の未開通区間である潮来 IC～茨城空港北 IC（約 39.7km）のうち、銚田 IC～茨城空港北 IC（約 8.8km）が 2018 年 2 月 3 日（土）に開通しました。

東関東道は、常磐自動車道三郷 JCT を起点とし、北関東自動車道茨城町 JCT に至る、総延長約 143km の高規格幹線道路です。今回の開通により東関東道の開通延長は全体の 7 割となる約 96km に達しました。（図-1、写真-1～4）



図-1 今回開通区間位置図



写真 1 開通セレモニー



写真 2 通り初め



写真3 銚田IC



写真4 茨城空港北IC

● 今回開通区間の概要

今回開通区間は、2012年12月より本格的な用地取得に着手後、工事着手を経て、約5年で完成に至りました。

当該区間は、比較的緩やかな丘陵地帯を通過しており、道路の構造は100%土工構造となっています。地質の特徴は、見和層と呼ばれる砂質土が主であり、固結度が低く浸食されやすいことから、地下水位の高い切土部では各種試験施工の結果、砕石のり面に水平排水層を併用する工法を採用しました。(写真5、6)



写真5 砕石のり面

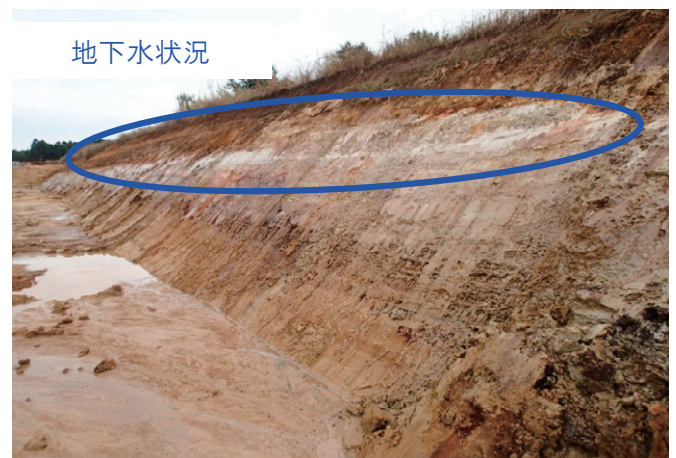


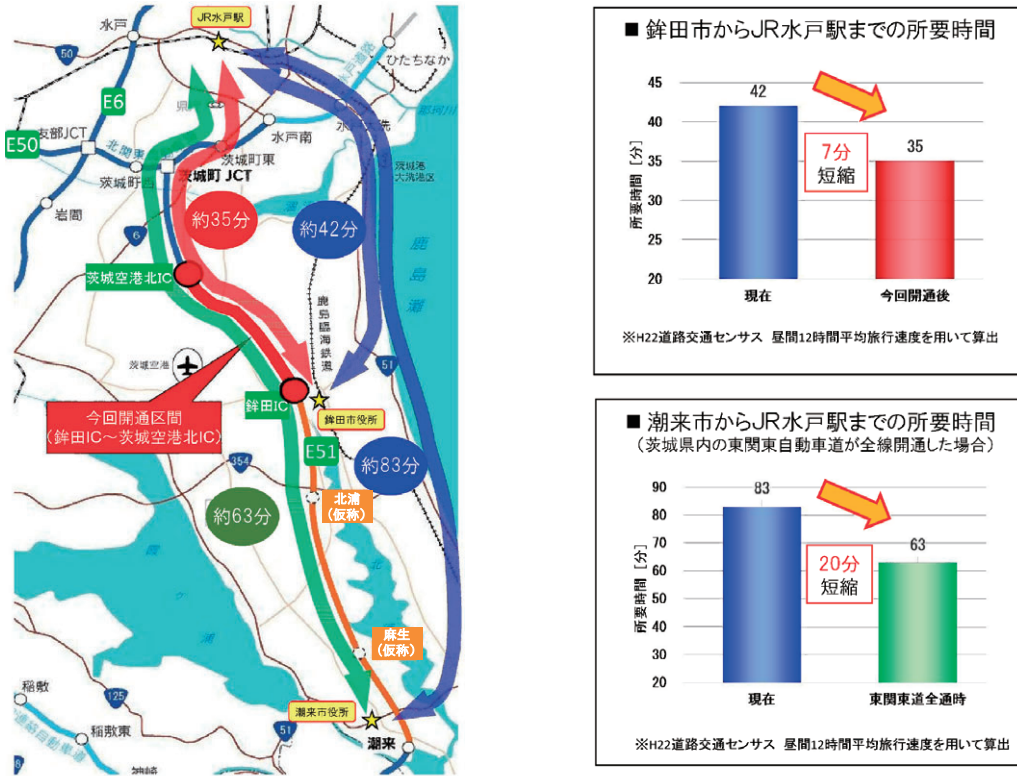
写真6 地山状況

● 開通効果への期待

本区間の開通により、鹿行地域から北関東・東北方面へ高速道路ネットワークが拡充することに伴う開通効果の発現を、地元から強い期待として寄せられています。具体的には、以下の効果が想定されます。

(1) アクセス向上により地域間の連携強化に寄与

今回の開通により、茨城県の鹿行地域から県の中心地である水戸市へのアクセス性が向上することで、水戸市と鹿行地域の連携強化に寄与することが期待されます。(図-2)



図－2

(2) 道路ネットワークの拡充による農産物輸送の利便性向上

鹿行地域から北関東・東北方面への高速ネットワークが拡充することで農産物輸送の利便性が向上し、地域の特産品であるメロンなどの農産物のさらなる販路拡大が期待され、沿線の農業機関関係者からは、「開通区間を利用することにより輸送時間の短縮につながる」などの声が聞かれており、地域の農産物の振興に期待が寄せられています。(図－3)



図－3

(3) 観光の活性化に期待

今回開通した銚田 IC 周辺には、メロンなどの地域の農産物の直売所が多くあり、夏の行楽地である大竹海岸などの観光地にも近く、沿線の観光施設関係者からは「4～6月のメロンのシーズンを迎えるにあたり、来訪者の増加に期待している」との声や、銚田市の観光協会関係者からは、「大竹海岸への観光アクセスとして今後は銚田 IC 経由を推奨する予定。夏の行楽シーズンにおける来訪者の増加が期待される。」との声が聞かれています。

また、沿線の JA 直売所からは「来訪されるお客さまからの問い合わせが増加傾向」であるとの声も聞かれており、地域の観光の活性化に期待が寄せられています。(図-4)



図-4

(4) 地域の安心・安全の確保

茨城県の鹿行地域から水戸方面へのアクセス性が向上することで、鹿行地域の医療機関関係者からは、「水戸方面へのアクセス向上により傷病者の搬送時間の短縮が期待できる」、「平坦性に優れた舗装路面により振動が少なく傷病者の負担軽減も期待できる」など、地域の医療環境の改善に繋がるとの声が聞かれています。(図-5)

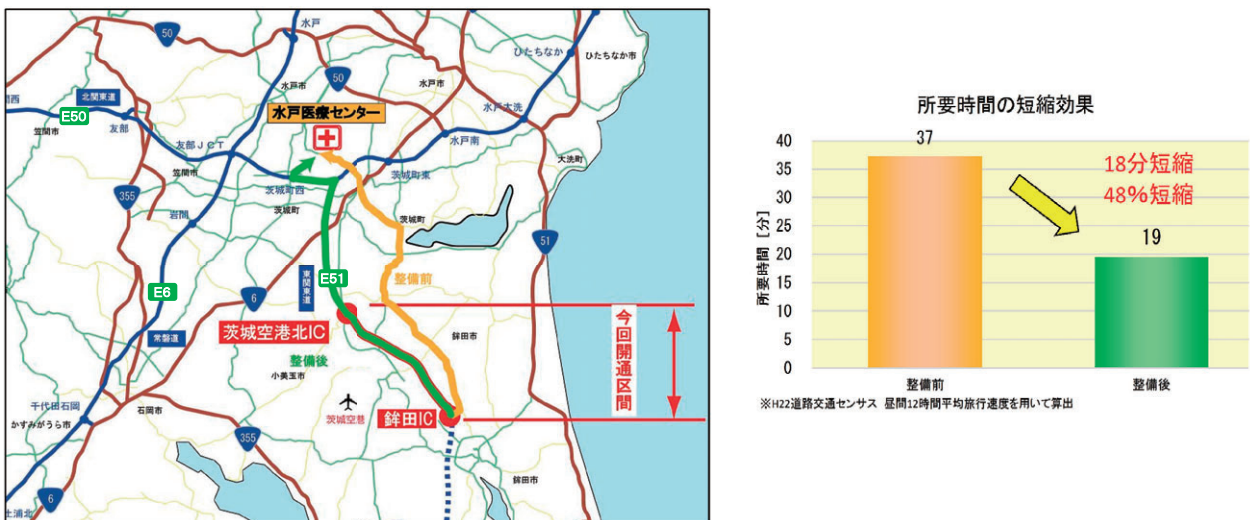


図-5

おわりに

東関東道は、国土ミッシングリンクの解消を図り、災害時における緊急輸送路としての役割を果たすほか、常磐自動車道、北関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道と一体となって、国際バルク戦略港湾の鹿島港や茨城港、首都圏の玄関口である成田空港や茨城空港とを結ぶ陸・海・空の広域ネットワークを形成し、地域のさらなる振興と発展に寄与する重要な路線として位置づけられています。

今回の開通は東関東道の全線開通に向けた第一歩となりますが、茨城県内の未整備区間である潮来IC～鉾田IC（30.9km）につきましても、引き続き、国土交通省常総国道事務所と一体となり、全線の早期完成に向けて事業を推進して参ります。（図－6）

なお、今回開通できたことは、貴重な土地をご提供して頂きました地権者の皆様、土運搬や交通規制などでの地元の皆様のご協力の賜物によるものであり、改めまして感謝申し上げます。



図－6